

日高の牧場に立ちて



向井成司

縁が大切なものであり、自然に親しむことが必要だということには誰も知っている。けれどもそういわれていたり知っていたりする割りに、実際に自然に触れる機会はそう多くはない。山へ行ったり、海に行ったりするのも時間と経費がかかる。大切なことだと分かっていてもそれを実現するのは容易ではない。簡単に、ということはずまりお仕着せの観光ルート、レクリエーション産業にはまりこんでしまうことになる。

親しみやすい自然としての田園を、多くの人たちに、という考えを持った人たちがいる。その一人がその名もユートピア、という牧場を成立させた。これは自然を愛し、その中での人々との交流を求める人たちへの呼びかけである。

ここは海拔二七〇m。日高山脈の主峰・幌尻岳を目指して、新冠川を遡ること約一七km、左岸高台の最奥離農跡である。この地に、僕たちが「人類のふるさと」作りを旗印に掲げてブラウを入れたのは、いまから六年前のことである。その頃、わが国の

経済は高度成長の高波の真只中にあり、世界史上類を見ない、その驚異的な成長率は、かけがえのない地球の逸宝を破壊し始めていた。美しい海は汚され、白砂青松を誇った瀬戸内の岸は無残にも埋め立てられ、甕追いしかの山は一夜にして削りとりられ、七夕星を仰いだ澄み切った夜空はスモッグによって、そのロマンを失って行った。

わが同胞は、世界の識者から動物視されてもなお、働くその手を休めず、陶然と地球中の資源を喰い漁っていた。その結果、成金の快感を覚えたアニマル達は、次第に人生に対する価値観を倒錯して行った。より物質至上主義へと……。富める者は驕り、貧者は侮蔑され、弱肉強食の世界が普遍化して行った。あたかも、人類の共存共栄を忘れたかのように、富強者は利己心をつのらせて行った。そんな人心の荒涼とした暗い世相の中で僕たちは、まるで信じられないような夢物語りに遭遇した。

この牧場創設に当って、恩師水谷先生の提唱された「知恵のある人は知恵をもって、金のある人は金をもって、力のある人は勤労によって、ユートピア作りに協力しよう」との呼びかけに、現実には、人材と資金が集まったのである。それは財閥の篤志寄金もあって、信じられないほどの巨額に達した。これはまさに、現代の神話でなく

てなんであろうか。

僕たちは考えた。この善意と友情の結晶として、この地に「神話の博物館」を建設しよう。この神話——人類の持つ崇高な精神——を後世に伝えるために、この地に永遠の場を築きあげよう。そして美しい自然の中で、美しい心と心がふれ合う、生活の場を創成しよう。さらにまた、ここを訪れる人々に、自然に親しみながら人生を語り合い、地球について考え合う、語らいの場を提供しよう。こんな願いをこめて今僕たちは、「人類のふるさと」ユートピア牧場を建設中である。

念願のロッジはすでに完成した。そして語らいは着実に始まっている。人類の連帯を求め、ユートピア作りの夢を買う仲間の輪も、日増しに拡がりつつあるのはまことに頼もしい限りである。この自然を愛し隣人を愛する連帯の輪を、この地のみならず十勝にも、信州にも、はたまた、ネパールにも拡げて行きたい。いつの日か、遠い遠い日、ユートピア造りを願う人々で、地球が埋められる日々を夢みながら……。

いま、この段丘に立って、一四〇町歩の拡がりの中で、はるか眼下に太平洋を眺望しながら、僕はこみあげてくる感動を、押さえ切ることができない。

(ユートピア牧場)